

平成 21 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471902641	事業の開始年月日	平成17年4月1日	
		指定年月日	平成17年4月1日	
法人名	株式会社 サンライフ			
事業所名	サンライフ 三春町			
所在地	(238-0014) 横須賀市三春町6-85-39			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成22年2月10日	評価結果 市町村受理日	平成22年4月14日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者は勿論ですが、ご家族の皆様にも安心して頂けるように努力しています。ご家族の皆様には、介護や通院等の心配が無く、純粋に家族として面会に来られるような環境を作りたいと考えています。「実家に帰れば元気な両親が迎えてくれる」そんなイメージをご家族の皆様感じて頂けるようなホームを目指しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成22年2月23日	評価機関 評価決定日	平成22年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特徴
 ①オープンより6年目を迎えるこちらのホームは京急線堀之内の駅より徒歩15分程度の高台の住宅地の中に有り、ホームのリビングから東京湾・房総半島まで望める。サンライフは他に川崎に有料老人ホーム、このホームと横浜市青葉区にグループホームを、このホームでは更にデイサービス(登録25名定員)を展開している。デイサービスの車と運転手さんをお願いして、フットワーク軽く、ご入居者の外出支援に協力してもらい、天候やその日の気分の赴くまま、家庭生活と同様の気楽さで外出を楽しんでいる。暖かくなってきたのでカワヅザクラの花見、男性スタッフと釣りに行く予定等行っている。スタッフの話の中にあつたこのホームの管理者の自由な雰囲気、まわりにとらわれない日々の生活のなかに管理者が求めているグループホームの在り方が表れている。
 ②地域との関係については、住宅地にあるため自治会に参加している。自治会では緊急時にはホームを一時避難場所にご利用いただける様お話をしている。運営推進会議は横須賀方式で地域会議(年2回)事業所会議(年4回)計6回開催している。運営推進会議に出席して下さっているご家族も含め家族会を発足させ、年2回の開催ではあるが活発な意見が飛び交う。管理者にはとても参考になる意見が出ている。
 ③ケアについて、ケアプランはセンター方式を100%採用し、部屋担当制により、担当者はケアマネジャーの指導を受けつつ全シートの責任を持ち、職員の教育の面でも大きな効果を上げている。また、デイとの共通で1名の看護師を採用し、勤務時間を定めて兼務で医療連携体制を取っており、ドクターとも24時間体制が整っていて入居者及びご家族に安心を与えている。また、グループホームでのデイ対応の認可があり、馴染みながらの入居や入居待機中の活用及び地域の認知症の方への対応に有効である。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	サンライフ三春町
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、事業所の理念を共有し、地域の中での役割等を見出せるように常に模索している。	法人の理念、事業所の理念を共有し、地域の中での役割等を見出せるように常に模索している。地域の行事に参加すること等により地域の方々と交流を持てるようにしている。買物等も地域のお店に行き交流を持てるように心がけている。この地域の中でその人らしい生活とは何か？ 私達にできるサービスは何か今後も模索して行きたい。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入、自治会のイベントへの参加から少しずつ交流の場を増やしている。	住宅地にあるため自治会に参加している。自治会では緊急時にはホームを一時避難場所にご利用いただける様お話をしている。自治会のイベントへの参加から少しずつ交流の場を増やしている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の勉強会等で認知症についての説明等を実施		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方との交流等について、協力して頂いている。	運営推進会議は横須賀方式で地域会議(年2回)事業所会議(年4回)計6回開催している。参加者は自治会長、民生委員、町内会福祉推進委員、事業所スタッフ、入居者(1名)、入居者家族(2名)で開催している。運営推進会議はテーマはご入居者の現況報告・町内会との合同の防災訓練、ホームだけで行う防災訓練等の話の中で地域の方々に協力をお願いし、ホームの役割等を災害時にはお互い協力しあう話し合いが行われている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域会議等の場で取り組み等を伝える機会を利用している。	横須賀市へは地域会議等の場で取り組み等を伝えるようにしている。横須賀市は福祉に熱心であり、市へは極力足を運ぶようにしている。不明な点や判断に困るような場合は相談するように心がけている。今後も、より良い関係を構築していきたい。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束は行わない」が基本であるが、玄関の施錠については必ずしも常時開錠ではない。	「身体拘束は行わない」が基本であり、行っていない。玄関の施錠については必ずしも常時開錠ではないが、必要最小限に止めている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	横須賀市が積極的に虐待関係の研修を行っているので職員にも参加してもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に制度を利用している方がいる為、制度を理解する環境にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族会を活用し説明を行っている。また、個別にも対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、事業所会議等の機会を利用して頂くと共に、面会時等にはスタッフから積極的に声を掛けさせて頂いている。	運営推進会議に出席して下さっているご家族も含め家族会を発足させ、年2回の開催ではあるが活発な意見を頂いている。家族会、事業所会議等の機会を利用して頂くと共に、面会時等にはスタッフから積極的に声を掛けさせて頂いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等の場を利用し提案事項や改善点等の検討材料としている。	ミーティング等の場を利用し提案事項や改善点等の検討材料としている。管理者は必要に応じ面接も行うようにしている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心として、現れているかは、不明な部分も多いですが、職場の環境整備や働きやすい職場になるよう努力はしています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横須賀市のグループホーム協会は交流を図りながらの研修を積極的に実施しています。当事業所からも積極的に参加させて頂いている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの情報を大切にし、時間を掛けながら本人からの信頼を得られるように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の段階で一度に伺う情報量を抑え、数回に分けて情報の収集を行うように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族への連絡を密に行い、対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	物事を決定する際等には意見を頂いてみたり、一緒に作業を行ったりと出来ること、参加できることには参加して頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の希望を伺いながら、ご家族には家族としての役割を果たして頂けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族への確認を行い、友人等の面会にも対応している。	ご家族への確認を行い、友人等の面会にも対応している。認知症の進行により、馴染みの人などとの関係継続が難しい方もいるので、ここでの地域の方たちとの交流の強化に努めて行く。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置替えを行ったりと配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方が、当施設内のサービスを利用していることもあり、定期的に連絡を取ったり足を運んで頂いたりと交流ももっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族等からの情報を参考にしている。また、本人の思いも大切にしている。	ご家族等からの情報やアドバイス、日常の会話の中での何気ない言葉に耳を傾けるようにし、本人の思いも大切にしている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の協力を得ながら実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録にて日常の変化等の情報を共有するように心掛けている。カンファレンス等のミーティングでも確認するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成のツールとしてセンター方式を利用している。ご家族の意見、希望も確認しながら作成している。	介護計画作成のツールとしてセンター方式を利用している。カンファレンスでアセスメントを実施し、ご家族の意見、希望も確認しながら作成している。スタッフに担当を割り振り、ケアプランに活かし、変化があればタイムリーにケアプランに反映できるようにしている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カードックスを用いての記録を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	極力ご家族の負担にならないよう可能な限り対応できるように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本はホームドクターであるが、ご家族の希望がある場合は対応している。	基本はホームドクターであるが、ご家族の希望、本人が以前からかかっている医療機関の支援も実施している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があれば伝え、医療機関の受診に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は極力情報交換を行い、早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の希望に沿うことができるように、方針の共有に努めている。	医療連携体制を整備し、ご家族と話し合い、事業所としての考え方を説明し理解して頂いている。定期的にご家族、医療関係者と連絡をとり確認して行く。ご家族の希望に沿うことができるように、方針の共有に努めている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通、上級救命の講習に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当施設の防災訓練、避難訓練には地域の方にも参加して頂いている。	町内会の防災訓練に参加。また、事業所の訓練の際にも町内会の協力を得ることができ、当施設の防災訓練、避難訓練には地域の方にも参加して頂いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に心掛けている。	常に心掛けている。特に個人情報については取扱いに注意している。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中において、ご自分の意見や思い、感じたことを表現できる場面を作り出す努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ本意、思いが先行しないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の思いを尊重している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	最近では、調理に係わることができる方がいなくなりましたが、片付け等可能な範囲で行っている。	男性の利用者が多いこともあって食事の準備を一緒に行うことは少ない。片付け等は積極的にして頂いている。最近では、調理に係わることができる方がいなくなりましたが、片付け等可能な範囲で行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みを把握し摂取量が確保できるように形状等まで工夫するようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、実施している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用しパターンの把握に努めている。	排泄チェック表を活用しパターンの把握に努め、誘導を適宜行い、尿意・便意の維持を大切にしている。		今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食べ物の工夫をしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間は決めてはいない。入浴が嫌いな方もいるので声掛けにて促し入って頂く場合もある。	曜日や時間は決めてはいない。入浴が嫌いな方もいるので、入浴の間隔が空きぎみの場合は声掛けにて促すが、無理強いはしていない。夜間の入浴も行っている。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価 実施状況	実施状況 次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	以前の情報を参考にしながら対応している。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	実施している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	情報をより多く収集し、楽しく過ごすことができるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、買物、散歩等外出の機会を工夫している。	ドライブ、買物、散歩等外出の機会を工夫している。ご利用者の意向に合わせて外出の援助をしている。 今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得ながら実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙はほとんどありませんが、電話については支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳のスペースを作ったり、ソファの配置を変えたりと配慮している。季節の花を飾ったりと工夫している。	畳のスペースを作ったり、ソファの配置を変えたりと配慮している。季節の花を飾ったりと工夫している。清潔に保ちながら危険が無いよう心がけている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳のスペースを利用して頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得ながら実施している。	ご家族の協力を得ながら使い慣れた物をお持ちいただいている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口には似顔絵、トイレにはトイレと分かる表示をしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

サンライフ三春町

作成日

平成22年2月10日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	本人の思いを大切に考えているがまだまだ不十分な面もある。思いを十分に感じ取れていないとも考えられる。	スタッフの思いが先行しない様にする。思いを少しでも多く感じ取ること。	最近の傾向としてスタッフの意識が業務に向いているので入居者に向けることから始めたい。	1年
2	27	記録に落がある。雑になってきている。	確実な記録を残すこと。	記録の必要性、重要性を再確認する場を作り、研修を行い実行していく。必要があれば書式の変更を行う。	1年
3	2	地域との付き合いをもう少し増やしていきたい。	どんな形でも良いが地域と少しでも多く関わること。少しでも貢献できる様にする。	民生委員の方に協力して頂きながら、出来ることから始める。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。